

グリーン・ツーリズム花まるっ大学かたくり館で紙漉き体験

6月22日、平成18年度グリーン・ツーリズム花まるっ大学(秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会主催)第1回講義が西木町のかたくり館を会場に開催されました。

当日は、事前に申込のあった17人が参加し、講義に続いて、かたくりの里を散策したあと、鎌足和紙の紙漉きを体験しました。

参加者は、鎌足和紙保存会のみなさんから説明を受けたあと実際に体験していましたが、薄くなったり、厚くなったりして、保存会のみなさんから上手に漉くコツを教わりながら体験していました。



保存会の佐々木さんから指導をうける参加者

高校生事業所視察会

6月28日、高校3年生を対象に、仙北市と仙北市商工会が共催の高校生事業所視察会が行われ、6校から39人が参加しました。

当日は、視察会に先立ち、角館広域交流センターを会場に、山崎ダイカスト株式会社山崎博次代表取締役社長から「企業が求める人材とは」～有意義な就職活動に向けて～という演題で講演がありました。

引き続き、3つの班に分かれて、各3社の企業を訪れました。訪問先の企業では、初めに会社の概要について説明を受けたあと、会社内を案内してもらい、仕事の内容を熱心に見学していました。



企業の担当者から説明を受ける高校生

触れて さわって 武家屋敷を感じて



秋田県視覚障害者文化研修会が7月8日から仙北市田沢湖内のホテルで行われ、その参加者約60人が9日、角館の武家屋敷を訪れ、かくのたて歴史案内人組合と仙北市ボランティアセンターのみなさんの案内により武家屋敷の散策を楽しみました。

視覚障害者団体の案内は初めてという同組合では、各武家屋敷等から協力を得て、「触れる、さわる、感じる」を主体に門や板塀、シダレザクラなどに実際に触れて感じてもらうという工夫された案内に、参加者は角館の歴史を感じることができたと喜んでいました。

ふるさとの清流に花の彩りを添えて

ふるさとの川・生保内川は、県内屈指の清流である。時には暴れ川となって人命を奪うこともあった(昭和35年8月の洪水で15名が犠牲)が、日頃は「清らか」で「おだやか」に流れる優しいふるさとの川である。川を囲む森林と遠くに見える山景も春には「新緑」夏には「深緑」秋に「紅葉」そして冬には水墨画のような「雪景」を演出してくれ、生保内川の河畔は、里山の四季の自然を映し出すパノラマスクリーンの観客席である。

その観客席の河畔に「生保内川癒しの溪流づくり実行委員会」(菅原陽三委員長)の呼びかけで、6月11日に地元の田口幸治さんをリーダーに住民43人がボランティア参加して、60本の「さくら」の苗木を植樹した。

雪が残るまちにいち早く春を告げる「白いこぶし」の花が咲き、そして雪どけとともに生保内川の河畔に「うす桃色のさくら」が咲き、夏には昨年、地元有志が植樹した「紅いさるすべり」の花が咲く。

ふるさとの川で遊び、ふるさとの風景とともに育った人たちの「ふるさとの清流に花の彩りを添える」活動は、5年後、10年後、20年後そして悠久の時を刻んで花開かせることだろう。

